



平成 29 年 牧之原市 10 大ニュース



平成 29 年 12 月 22 日
牧之原市政策協働部秘書広報課

① 東京五輪・パラリンピックのホストタウンに登録

2020 年東京五輪・パラリンピック大会における中国とアメリカのホストタウンに牧之原市に登録されました。今回のホストタウン登録を契機に、サーフィンを中心としたビーチスポーツでの沿岸部ににぎわい創出をはじめ、文化交流やスポーツ交流を深めていくとともに、おもてなしの体制づくりを進めていきます。



交流事業「アジアンサーフィンツアー2017」

② 津波避難施設の整備完了

津波防災まちづくり計画に基づき、平成 26 年度から進めてきた津波避難施設については、遠渡1号避難地や大江いのち山などの整備が進み、津波避難施設 12 カ所が今年度までに全て完成します。避難地・避難路についても、平成 30 年度中には整備完了の予定となっています。



完成した大江のいのち山

③ 小中学校のトイレ洋式化・中学校にエアコン設置

市内全ての小中学校において、トイレの洋式化の整備が完了しました。児童生徒の生活環境の向上だけでなく、災害時に校舎を避難所として利用する場合の衛生面での改善が期待されます。また、中学校においては、普通教室へのエアコン設置も完了しました。



より快適な教育環境を目指します

④ 子育て支援施策の充実

子供たちを育てやすい環境を充実させるため、さまざまな施策を推進しています。3月には細江放課後児童クラブが完成し、子供たちが安全で快適に過ごせる場所ができました。また、働く保護者の皆さんが安心して子育てができるよう、病後児保育事業やファミリーサポートセンター事業を開始しました。



細江放課後児童クラブを新築しました

⑤ IC北側土地区画整理準備組合の設立(2月)

市の総合計画の柱として位置付けられている東名高速道路IC北側の開発について、2月に権利者による「牧之原市IC北側土地区画整理準備組合」が設立されました。これを受け、市でも4月に牧之原市IC北側整備事務所を開設し、「新たなにぎわいの場」創出に向け、取組みを進めていきます。



IC北側整備事務所内に新拠点整備室を設置

⑥ 市内初のバイオガス発電所が竣工(3月)

白井工業団地内でメタンガスを燃料とする「バイオガス発電所」が完成しました。発電所では県内の食品製造業者から引き取った食品廃棄物を発酵させてメタンガスを作り、このガスを燃やして発電します。1日 80 トンの食品廃棄物で、年間に 600 世帯分の消費電力に相当する 340 万キロワットを発電する能力があります。



順調にフル稼働するバイオガス発電施設

⑦ 片浜小学校 62 年の歴史に幕(3月)

片浜小学校が相良小学校へ統合しました。学校と地域が共につくり上げた閉校式では、児童が学校の歴史や思い出を劇で披露するなど、心に残るものとなりました。児童は、4月からスクールバスで元気に相良小学校に通学しています。旧校舎は、新たな地域の拠点としてのリノベーションを進めています。



「浜っ子魂」は永遠に！

⑧ さがら子生れ温泉会館 300 万人達成(7月)

平成 17 年 12 月 8 日に開館以来、市民から愛され市外からも多くの方が来館されている「さがら子生れ温泉会館」への入館者が、7月に 300 万人に達しました。「子授けの湯・安産の湯・長寿の湯」とされ、源泉湯のみを使用した、ナトリウム泉質の温泉を楽しむことができます。



来場者 300 万人達成を祝うセレモニー

⑨ デマンド乗合タクシー試行運転開始(10月)

バス路線がない交通空白地域である坂部区において、自宅と市内の病院やスーパー、公共施設を結ぶデマンド(予約型)乗合タクシー「さかべ号」の試行運転が 10 月から始まりました。市の公共交通を考えた新たな試みで、今後も地域の特性に合った施策を順次検討していきます。



地域の公共交通を担う「さかべ号」発進

⑩ 新たな市長・市議会議員が決定(10月)

牧之原市長選挙と牧之原市議会議員選挙が 10 月 22 日に行われ、市長や市民の代表である 16 人の市議会議員が決まりました。市民の関心も高く、投票率はいずれも 66.59%で、前回選を約 4.3 ポイント上回りました。今回は県内で唯一衆議院議員総選挙と日程が重なるトリプル選挙となりました



市職員による開票作業の様子